

令和7年度小平市立上水中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておこななければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

本校の正答率は、全国平均より 6.7 ポイント高く、都平均より 4 ポイント高い。思考・判断・表現の観点では、都平均より 4.4 ポイント高く、短答式や記述式も 7.4 ポイント上回っている。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均より 0.8 ポイント低かった。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が都平均よりも 4.4 ポイント低かった。このことから、漢字の定着を図ることや、語彙力をつけることが必要だと分かった。また、文脈に即して漢字を使い分ける指導や事象や行為を表す語彙を増やす指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

漢字の読み書きの取り立て学習を授業の初めに行い、定期的に定着度を確認する。語彙の学習に関しては、教科書の单元ごとに学習に必要な言葉や生徒自身が知らない言葉の意味調べを行う。また、類義語や対義語など関連づけた語彙も意識させる。さらに、新聞のコラム等を活用し、文脈に合う漢字や語彙を考えさせたり段落ごとに要約を考えさせる指導を9月より隔週で取り組んでいく。

【数学】

状況の分析

課題

本校の正答率は、全国平均より 12.7 ポイント高く、都平均より 8 ポイント高い。

四分位数では、すべての値で、全国及び都平均を上回っている。

特に第1四分位数では 13 ポイント高く、全体的に学習状況の定着度が高いことがわかった。

観点別の正答率では、思考・判断・表現に比べ、知識・技能における正答率が、全国及び都平均との差が小さかった。

日常的に、言語活動を取り入れた結果、記述式問題には慣れている一方で技能の定着に向けた繰り返し学習はさらに増やすことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

一つ一つの課題に時間をかけて、理解を深めていくだけでなく、基礎的・基本的な学習内容の定着のための時間も確保する必要がある。本校で導入しているドリルソフトも有効に活用しながら、繰り返し問題に取り組むように指導していく。

【理科】

状況の分析

課題

本校の正答率は、10問中9問で全国及び都平均を上回っている。思考・判断・表現の観点で、都より8.6ポイント高く、知識・技能の観点で、都の平均より4.6ポイント高い。無回答があった問題は3問のみで都の平均より少なかった。

「呼吸を行う生物」を問う問題の正答率が、都の平均よりも6.4ポイント低い。このことから、生物への理解や、植物が呼吸を行っていることへの理解が不足していると考えられる。生物グループの特徴を整理する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

実験・観察の考察のときなどに、対話的な活動を増やし、説明する力を養うとともに、論理的に順序立てて、説明したりすることで表現力を養っていく。また、実験・観察の考察を十分に行い、自分の考えをもたせるようにする。考査期間を中心に、問題集の取り組み方や学習方法など一人一人に合わせた指導を行う。

○基本的な生活面「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は、それぞれ 93.8%、81.5%で、全国平均に対して 2.6 ポイント、0.5 ポイント高かった。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問への回答は 90.7%であったが、全国平均より 1.9 ポイント低かった。

○自己肯定感・日常の満足度「自分には、よいところがあると思いますか」には 92.8%が肯定的な回答をし、全国より 6.6 ポイント高かった。また、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」についても 1.6 ポイント高い。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」には 65.0%の生徒が肯定的に回答したが、全国より 2.5 ポイント低かった。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」には 87.6%の生徒が肯定的に回答したが、全国と比較すると 4.0 ポイント低かった。

○特別の教科道徳「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、95.9%の生徒が肯定的に回答した。

○読書活動の充実「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に「1時間以上」と回答した生徒は 6.2%で、全国平均より 3.4 ポイント低かった。それらの生徒のうち「2時間以上」と回答したのは 2.1%で、都平均よりも 1.7 ポイント、全国平均よりも 1.5 ポイント低かった。一方、同質問に「全くしない」と回答した割合は 38.1%で全国平均より 3.7 ポイント低かった。

○ICT 機器の活用「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」について、78.4%の生徒が肯定的に回答し、全国平均より 25.2 ポイント高かった。

○多くの生徒が、毎晩一定の時間に就寝したり、朝食を食べたりする習慣がある一方、起床時間が一定でない生徒の割合が全国平均と比べて若干多い。規則正しい時間に起床する習慣が体調にいかによい影響を与えるか、保健体育科、養護教諭を中心に、継続的に指導する必要がある。

○自己肯定感に関する項目は、全国平均と比較して高くなっているが、将来のことを肯定的に考えたり、日常生活の中で幸福感を感じたりする生徒の割合に課題が見られる。外部人材との連携などを通して、主に総合的な学習の時間における学習内容を充実させ、将来のことを前向きに捉えられる生徒を育成する。

○特別の教科道徳では、昨年度以前より引き続き、各学期に 1 回以上のいじめ防止に関する授業を行い、話し合い活動が活発に行われている。いじめに関する授業の一層の充実を図り、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対しては「当てはまる」と回答する生徒の数をさらに増やす。

○学校司書や司書教諭、図書館担当との連携を通し、生徒の図書室の利用数の向上を目指すとともに、「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に「1時間以上」と回答する生徒の割合を増やす。

○学習者用端末の使用に慣れている生徒が多い。授業における使用頻度も高く、それらの機器操作に長けている生徒も多い一方、ICT 機器を学習の一つの方法として効果的に活用する方法について指導を行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

○保健体育の授業や保健だよりを通じて継続的に指導し、生徒の基本的な生活面を整えることへの意欲を高める。また、校内生活目標に時間を守るに関するものを含めることで、学校全体で生徒の生活の質の向上を目指す。

○読書の重要性について全校集会などの機会を活用して生徒に伝えたり、図書室の利用を促す取組をしたりすることを通して、読書活動を全校的に推進する。

○ICT 機器の使用について、技術の授業や全校集会、安全指導の時間を利用して、適切な使用方法に関して指導をしていく。また、生徒による不適切な使用を想定し、適切に対応することができるよう教員間の共通理解を図る。

○特別の教科 道徳の授業については、いじめに関する授業を各学期に1回確実に実施し、いじめを許さない風土を継続的に築いていく。